

夏瀬の森

だより

平成二十九年十月二十五日 第七十七号
田殿丹生神社 宮司 嶋田博文

快晴の下の秋祭り

十月十一日、素晴らしい晴天のもと、秋祭りの例大祭を挙行する。皆様の協力。ご支援の申し、心からお礼。午前九時の神事。砲を合図に、秋の収穫の様が始まる。



感謝と田殿の郷の繁栄と安泰を祈願する祝詞を奏上しました。その後、広庭では出区の三面(獅子舞)が奉納され、正午からは神輿の出発の行事(神幸祭)を行います。獅子舞の三面が披露

しながら、その後三年から六年の生まで約一〇〇人の神輿(みこし)が、三ヶ字の山車、六ヶ字の山車、子鼓の山車の笛太鼓の音も賑やか。お渡りの行列が始まり、各地で様



々な芸を披露しながら四時に大谷の下の宮(御旅所)に到着し、ご祈禱の後、五時からもち投げが行われました。今年も弁天堂様からたくさんのお餅やお菓子が奉納され、大勢の参拝者が満面の笑顔で餅拾いに熱くなっていました。五時半に神輿は上の宮にお戻りになり、還幸祭をもって長い一日の神事がお開きとなりました。

田殿地区芸能保存会より 御礼申し上げます

このたびの出区の三面獅子舞、尾中区、角区、長田区、上中島区、大谷区、賢区の山車に対しまして、多くの方々よりあたたくご声援ならびにご祝儀を賜りました。本来ならば個別にお礼を申し上げますが、大変失礼ではございますが本書を持っており、代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

絆も固く 田殿のお祭

今年の三区の責任区独自の芸を持っており、五種類の芸を披露して、くさくさした。獅子の中にも獅子頭を持つ者がなく、肩の上で行う芸(立ち獅子)には、



ち獅子)には、沿道の観客から大きな拍手が起きました。その他の芸も見事に完成されており、四十一軒の小さな字での運営は大変な苦勞であったかとは思いますが、素晴らしい地域が力強い絆を見せていただくことができました。人口減少の中で、の三面や山車の運

營の難しきはどの地区においても同じ悩みを抱えるところですが、どのような芸を披露するかももちろん皆さんのように運営をしていることですが、なごりを作り上げるの地域を盛り上げるように、携わっている方々最後にはそのところを最も大事になさって、神様を中心にして、氏神様をこの地域作りにも、皆様方のお力になれ、このようにご奉仕して参りたいと思っております。どうかよろしくお願

子ども笛太鼓の大きな花



「田殿まちづくりの会」が五年前に種をまいてくださった子ども笛太鼓が年々腕を上げて花開き、素晴らしい芸を披露してくれました。今年も青木茂さん、岩崎利弘さん、勝丸利和さんの師匠のもと、十四名の子どもたち、の笛太鼓を聞かせて、いただき、中には大人の出で、盛大な拍手を浴びて、飾は今年も大谷の青年さんたちが自作したものをお借りしました。色々など、子どもたちも大きくなりました。



も青木茂さん、岩崎利弘さん、勝丸利和さんの師匠のもと、十四名の子どもたちの笛太鼓を聞かせて、いただき、中には大人の出で、盛大な拍手を浴びて、飾は今年も大谷の青年さんたちが自作したものをお借りしました。色々など、子どもたちも大きくなりました。



「のぼり立て」と「なれ寿司」田殿地区では十月十一日の例大祭に先立ち、九日に先を揚げます。



それまでに柱だけを立てる地区が多く、田殿では七日に区民総出で柱を立ててくださいます。この日に秋祭りに欠かせないなれ寿司を作る家も多く、お祭りに向けての雰囲気がいきまします。



早くも新年用のしめ縄作り

十月一日、午前六時から月例の月並祭を執り行い、直会（なおりい）の後、一日がかりで総代様がしめ縄を作ってくれました。鳥居の大小二十本以上、しめ縄を毎年作ってくださいます。足踏み脱穀機を使って、わらをきれいに整え、一本一本丁寧に縄をないます。新しいしめ縄は大晦日に掛け替えをいたします。



七五三詣のご案内

子どもさんの成長を感謝し、無病息災をお祈りする七五三詣は、本年は十一月十一日（土）および十二日（日）の午前九時から午後三時まで、ご都合の良い時間にご奉仕いたします。その他の日時をご希望の方は、ご連絡ください。ご希望の時に祈

ホームページへもお越し下さい
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~tadononyujinjya/>
 TEL 五二一三三二一七